



CONTENTS

Top Opinion 1

「地域づくり」に目を向けませんか
シビルNPO連携プラットフォーム 代表理事 山本 卓朗

WS Topics 2

VOICE 2

結 露
J R東日本 尾崎 宏喜

たすきリレー 3

思い出（就職後の怒涛の10年間）
（株）大林組 鈴木 聡

今月の国際比較データ 5

PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記 6

Top Opinion

「地域づくり」に目を向けませんか

シビルNPO連携プラットフォーム 代表理事 山本 卓朗

このところ“急速に変化している時代”であることを強く感じています。

変化しているのは、気候変動と巨大災害やデジタル技術とChatGPTなど様々ですが、今一番の関心事は次の2点です。

その一つは、我が国の人口減少がはっきりとわかる形で社会に大きな影響を及ぼしてきたことです。昨年度の人口減少は86万人で、毎年、山梨県がひとつずつ消滅する、人口1万人以下の町村が100カ所も消滅する規模と例えれば、いかに深刻かがわかります。勿論都会も田舎も平均して減っていくなら、それほど深刻にはならないでしょうが、東京がダントツに増え続け、今や地方中核都市も軒並み減少していく人口配置のアンバランスは、あらゆる社会的課題を生み出している元凶という言い過ぎでしょうか。

東京一極集中を是正しようという努力は、長年にわたって続けられてきましたが、その政策は、産業を誘致して居住人口を増やすことが中心でした。しかし現在の潮流は、自治体、住民団体、地域企業が連携し、デジタル技術も活用して交流人口・関係人口を増やし、地域の活性化・地域づくりにつなげる形が模索されています。シャッター通りと化した商店街の再生プロジェクトも盛んになってきました。居住人口が減っても地域の活性化は図れるということを実績で示す動きです。一言で言えば、地域づくりのパラダイムシフトです。

もう一つの関心事がコロナ以降の鉄道・交通事業の構造変化です。元々我が国のテレワークの実施率は、欧米に比べてかなり低く、コロナ以前は10%程度でした。それが内閣府の資料では、コロナ後に30%にあがってきました。それでも欧米に追いつきませんが、鉄道輸送量を10%減少させる影響力を持っています。JR各社では、大手民鉄並みに不動産事業や事業開発部門を強化して、鉄道事業の減少を補うべく懸命に努力していますが、収入の骨格である通勤・幹線輸送の



私のインフラ巡礼



～旧下野煉瓦製造会社煉瓦窯～
鉄道の発展を支えた貴重な煉瓦窯
(JR東日本 若村 耕平さん)

未来構想PFのホームページ (HP) をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

で検索してください。

トップページへのリンクは [こちら](#)



減少という新しい事態に対して、もう一步進んだ構想が必要ではと考えます。すなわち、全国の鉄道・交通事業者が町村レベルを含めて「地域づくり」に積極的に参画することで、鉄道・交通事業のパラダイムシフト“都市計画・地域計画と一体となった交通事業のこれからを構築する”をめざそうというのはどうでしょうか。

最後に「地域づくり」に関して、私のNPOの資料を加えて恐縮ですが、参考文献を紹介しておきます。

- シビルNPO連携プラットフォーム HP検索「適疎な地域づくりとは」
- 「関係人口の社会学」 田中輝美著 大阪大学出版会
～住む人が減ったら地域は再生できないのか?～

WS Topics

未来構想PFワークショップ同窓会

(高田馬場駅周辺整備構想WS)「まちづくりは人づくり」

JR東日本 村岡 卓

2018年に森本先生(早稲田大学理工学術院教授)、小野寺さん(三井不動産)、大原さん(三菱地所)、内山さん(日建設計)、村岡(JR東日本)、森本研究室メンバーで高田馬場駅周辺における「個性あるえき・まちづくり」に取り組みました。当時、私たちは仕事終わりに森本研究室に通い詰め、打合せの後には場所を変えて夜遅くまで議論・懇親を深めました。そのような関係は今も続いており、今年は3回目の同窓会となりました(前事務局の土井さんも参加)。コロナ前の密なコミュニケーションを懐かしみながらさまざまな話題で盛り上がりました。最も印象に残ったことは、まちづくりやインフラ整備には数十年単位の時間を要し、その中心にはブレないキーマンの存在がある、「まちづくりは人づくりである」という森本先生のお言葉です。未来構想PFの目的

の一つは産学官の交流であり「人づくり」であります。6年経っても集まることができるのは森本先生のお人柄はもとより、相互に学びあうメンバーの想いがあるからだと思います。まさに「人づくり」に繋がっています。これからも定期的同窓会を継続し、「まちづくりは人づくり」を実践していきたいです。



VOICE

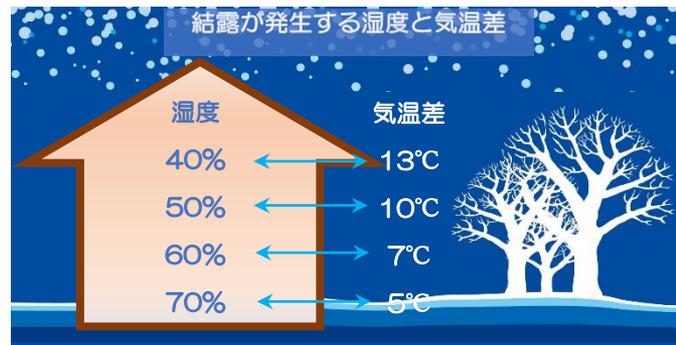
結露

JR東日本 尾崎 宏喜

私は2024年4月に帰任するまでの2年8か月間、鉄道・運輸機構に出向して北海道新幹線の札幌車両基地の工事に携わらせていただきました。担当した業務のご紹介をと考えたのですが…まとまらなかったため、今回の札幌赴任で頭を悩ませた“結露”についてお話させていただきます。

■ “結露”について

結露は、室内の空気中に含まれる水蒸気が外気との温度差のある窓などで冷やされることで水滴に代わる現象のことで、寒冷地では暖房により室内温度と外気温の差が大きくなる冬季によく生じる現象です。結露が発生する湿度と気温差の目安は下図のとおりになります。寒冷地の冬場は外気温が零下になるので、仮に外気温0℃、室内湿度40%とした場合(一般的に快適と感じられる室内の湿度は40~70%とされているので結構乾燥している状態)でも室内温度13℃となれば結露は発生することになります。



■ “結露”発生

私は入社するまで札幌の実家(戸建て)で過ごした経験がありますが、今回の赴任ではじめて家族と一緒にマンションに住むことになりました。築40年ほどの古いマンションでしたが、戸建てと違って冬は雪かきをしなくて済むこと、上下左右のお宅が暖房をつけていた



り各戸の給湯設備が貯湯式だったりで常に温められているせい以外は-10℃にも関わらず我が家は暖房をつけなくても17℃ほどであることに感動していました。しかしながら、この暖房をつけなくても17℃というのが一因で結露→青カビ→アレルギー性鼻炎・せき・じんましん・微熱→対応に大わらわという事態に！

■ “結露”への備え

北海道の“結露”に関して地元の友人に教えてもらった話を共有させていただきます。

・アルミサッシではなく樹脂サッシ

北海道では断熱性に優れた樹脂サッシの普及率が9割程らしいのですが私の住んだ部屋はなぜか断熱性の乏しいアルミサッシでした（最近断熱性の高い製品もあるらしい）。これにより結露が発生しやすくなると。もしアルミサッシの部屋に住むことになったら断熱テープ等を購入してDIYに励むと当座はなんとかなりますが…

・換気機能の確認

2007年の建築基準法改正により常時換気可能な換気設備の義務化となりましたが、北海道の場合はこれだけでは不足する場合があるとのこと。例えば、冬の間は洗濯物が凍ってしまうため屋外に干すことができず部屋干しをします。この際、部屋干しの場所で暖房をガンガン焚くとか除湿器をフル稼働させるとか十分な換気（窓を開ける等）を行わないと室内の湿度が上昇して結露が生じます。換気機能の事前チェックが重要だとのこと。私の場合はアルミサッシのせいかわかりませんが…暖房器や除湿器も旅行や実家への宿泊で不在の間はつけっぱなしにすることができず…しかも常時室温は17℃…

・その他

事前に地元の方の話を聞くことが一番です。私も赴任する前にもう少し管轄部署に掛け合えば“結露”で悩むこともなかったのかもしれませんが。



住まい近くの公園の風景

■ おわりに

“結露”に悩まされましたが私にとっては故郷に錦を飾るようなプロジェクトに携わらせていただき大変幸せでした。北海道も例に漏れず技術者が不足しておりますので、もし北海道に赴任される方がおられましたら少しはお役に立てる話ができるかと思っておりますのでお気軽にご連絡ください。

たすきリレー

思い出（就職後の怒涛の10年間）

(株)大林組 鈴木 聡

就職してからすぐの10年間、土木系社員として普通ではあまり経験できないことばかりが続いたので、この場をお借りして紹介させていただくことにした。

就職は昭和57年4月、日本国有鉄道首都圏本部に採用となり、日進の関東鉄道学園での研修を終えて、10月に東京第二工事局調査課に配属された。業務は貨物輸送の効率化であり、着発線荷役やピギーバック方式といった新たな荷役方法を検討した。しかしながら更なる貨物輸送量の減少に加え、国鉄分割民営化の風が吹き始めたことから、業務内容は貨物設備の縮小・合理化へと大きく舵を切ることとなり、新鶴見操車場をはじめとする貨物基地の縮小・再編を検討することとなった。現在の新鶴見操車場付近には多くの民間施設が立ち並び活況を呈しているのが感慨深い。

調査課で3年経験を積んだ後、停車場課へ異動となり横浜市営地下鉄乗入れに伴う戸塚駅改良計画に携わった。係長をはじめとする先輩諸氏から積算や図面の色塗り等々を厳しく叩き込まれたが、習得する間もなく10か月で異動することとなってしまった。それは国鉄分割民営化に向けた人員調整ということで、「センチュリー・リサーチ・センター（CRC）」という構造解析会社への3年間の派遣であった。しかし配属されたのは工場等で使用する部品在庫管理システムを開発する部署であり、言語はCOBOL。FORTRANなら多少かじってはいたが、年下の若いプログラマーに教えを請いながら、国鉄に縁も深い三工社のシステム改修を担当した。このシステムは、三工社内の端末で前日の使用部品数量を昼間入力してもらい、そのデータを電話回線で夜間にCRCのホストコンピューターに送り、前日の在庫データと



マッチングさせて在庫数を書換え、最新の在庫データとして三工社内の端末に送り返すという、今思えば単純明解なものであったのだが。ある日の深夜に自宅の電話が鳴り、出てみると会社のシステムエンジニア（SE）から「三工社の夜間バッチ処理がエラーで止まりました。どうしますか？」という問合せだった。何が起きているのか理解できないので「初電で会社に向かいます」と答えて家を出たが、その後も同様な事象が数度と繰り返され、さすがにまずいと感じた担当の課長がプログラムをしらみつぶしに確認した結果、潜んでいた欠陥を発見して何とか解決した。この時、この仕事を一生は続けられないかと強く感じた。

すると派遣開始から1年後1本の電話が職場にかかってきて、昭和62年4月1日付けでJR東日本投資計画部に採用されるので、準備するよにとのことだった。こうして3年の期間が短縮され、片道切符かと考えていた不安も解消し、無事にJR東日本本社旧館の投資計画部プロジェクトIIグループに配属となった。投資計画部分室は旧工事局の調査課メンバーが主体となり、国鉄時代に調査・検討していた数々の将来計画について系統を越えてブラッシュアップする業務を担っていた。私が当初携わったのは八高線と相模線の電化計画であったが、その後両線ともに電化が実現されたことは嬉しい限りである。

しかしながらこちらも安住の地とはならず、10か月で何と土木系が運輸車両部管理課（サービス課）へ異動となった。JR東日本発足1周年記念事業として東京駅赤レンガ駅舎内に美術館を開設するという業務だった。2月1日に発令で、4月1日には展覧会を開催するというとんでもないスケジュールであったが、美術館の改修工事はすでに大林組により進められていたこともあり、無事に初代「東京ステーションギャラリー」を開設することができた。そしてさらに2か月後の昭和63年6月に「ピカソ展」が実現した時は、我ながら驚いた。赤レンガの壁にかかったピカソの絵と、展示室の窓から見えた丸の内駅前の夜景が妙にマッチしていたことを思い出す。しかしここに至るまでの間、当時ご指導いただいたブリジストン美術館の学芸員や運輸車両部サービス課、施設電気部のそうそうたるメンバーのご支援がなければ成しえなかったことである。あらためて感謝申し上げる。

その後は業務をそのまま持ってJR東日本企画に出向となり、ギャラリーの開設準備から運営まで約4年間携わった。またその傍らで国際鉄道デザイン会議等の企画も担当し、充実した時間を過ごさせていただいた。JR東日本企画時代に「鈴木さんはなに屋さんですか」と

聞かれたときは「何でもない屋」ですと答えることにしていた。土木屋として胸を張れる経験も自信もなかったので（今でもそうですが）。そして双六ではないけれど振出しに戻るということで平成4年に2度目の投資計画部勤務となった次第である（結果として投資計画部には3度、約8年間在籍）。

以上が私の就職後の怒涛の10年間の思い出である。この間、国鉄CRC、JR東日本、JR東日本企画と4つの会社に勤務し、本当に多くの方々にお会いできたことが今では一番の財産となっている。

最後に思い出をもう一つ。それはJR東日本最後の職場で東京駅丸の内広場整備と北部通路拡幅工事に携われたことである。以前孫から「じいじは何のお仕事してるの？」と聞かれたことがあったが、どう説明しても理解してもらえなかった。しかし今では写真を見せて、この広場を造ったんだと答えたところ「きれいだね。今度連れて行ってね。」と言ってくれた。東京の玄関という目に見える仕事ができることが最高の思い出である。



プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157

メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28



今月の国際比較データ



●各国で関心の高いオリンピック競技

2024年のパリオリンピックは先ごろ閉幕しました。日本は金メダルが20個と海外開催で最多の記録を更新しました。そんな中、パリに本社を構える世界的なマーケティング・リサーチ会社であるイプソス (Ipsos) 社は、今回のパリオリンピックに先立って、世界32カ国の国民がどのようなオリンピック競技に対して関心が高いかについての意識調査を行いました。

なお、同調査でオリンピックイベントと読んでいる五輪競技の選択肢は22種目であり、ブレイクダンスといった新しい種目が入っている反面、伝統的な主要競技のレスリングが抜けています。

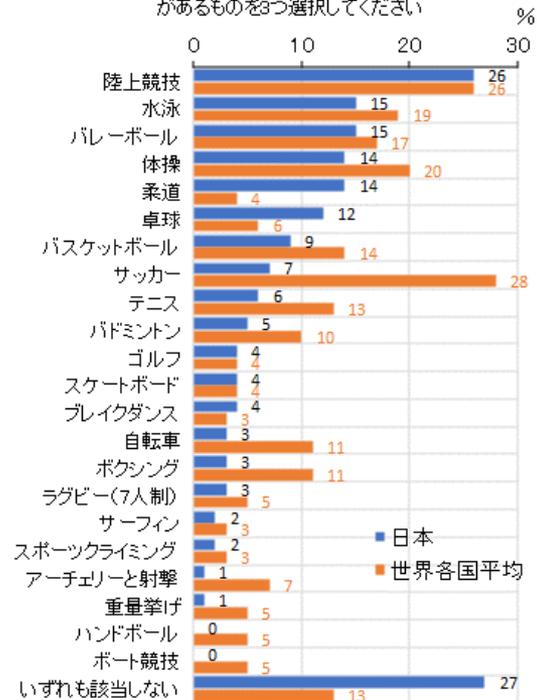
日本のトップ5は、「陸上競技、水泳、バレーボール、体操、柔道」であるが、世界のトップ5は「サッカー、陸上競技、体操、水泳、バレーボール」となっており、陸上競技、水泳、バレーボールなど世界と関心が重なる競技も多いが（日本の陸上競技への関心が世界並みに高いのは日本で人気の高いマラソンが陸上競技に含まれているからという側面が大きいと考えられる）、一方で、サッカーへの関心が世界と比べて非常に低い現実があります。

世界	各国平均	関心度(関心の高いオリンピック競技を3つまで選択した回答率順)							
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位
ヨーロッパ	ベルギー	陸上競技	体操	サッカー	水泳	バレーボール	バスケットボール	テニス	自転車
	英国	陸上競技	体操	サッカー	水泳	自転車	テニス	ボクシング	ラグビー
	アイルランド	陸上競技	サッカー	体操	ボクシング	水泳	ラグビー	テニス	バスケットボール
	イタリア	陸上競技	サッカー	水泳	テニス	体操	バレーボール	自転車	バスケットボール
	オランダ	陸上競技	サッカー	自転車	水泳	バレーボール	テニス	バレーボール	バスケットボール
	スウェーデン	陸上競技	サッカー	ハンドボール	水泳	自転車	体操	ボクシング	ゴルフ
	フランス	陸上競技	サッカー	テニス	体操	水泳	バスケットボール	ラグビー	柔道
	ドイツ	サッカー	陸上競技	水泳	ハンドボール	バスケットボール	テニス	ボクシング	体操
	スペイン	サッカー	バスケットボール	テニス	陸上競技	体操	水泳	自転車	ボクシング
	ポーランド	バレーボール	陸上競技	サッカー	テニス	ハンドボール	体操	自転車	バスケットボール
	ハンガリー	水泳	サッカー	ハンドボール	陸上競技	体操	ボート競技	バスケットボール	テニス
	ルーマニア	体操	テニス	陸上競技	ハンドボール	水泳	ボート競技	バスケットボール	自転車
北米	米国	体操	水泳	バスケットボール	陸上競技	サッカー	バレーボール	ボクシング	テニス
	カナダ	水泳	陸上競技	体操	サッカー	バスケットボール	バレーボール	テニス	自転車
	メキシコ	体操	サッカー	水泳	陸上競技	ボクシング	アーチェリー	バスケットボール	バスケットボール
南米	ブラジル	バレーボール	サッカー	体操	陸上競技	水泳	スケートボード	バスケットボール	ボクシング
	アルゼンチン	サッカー	体操	バレーボール	バスケットボール	陸上競技	テニス	ボクシング	水泳
	チリ	サッカー	体操	陸上競技	テニス	水泳	バスケットボール	自転車	バスケットボール
	コロンビア	サッカー	自転車	体操	陸上競技	水泳	バスケットボール	ボクシング	重量挙げ
	ペルー	サッカー	バレーボール	陸上競技	体操	水泳	バスケットボール	テニス	自転車
アフリカ	南アフリカ	サッカー	陸上競技	ラグビー	水泳	体操	テニス	バスケットボール	ボクシング
アジア	インド	サッカー	バドミントン	バレーボール	テニス	自転車	バスケットボール	ボクシング	卓球
	インドネシア	バドミントン	バレーボール	サッカー	陸上競技	バスケットボール	テニス	自転車	体操
	マレーシア	バドミントン	サッカー	陸上競技	水泳	自転車	体操	アーチェリー	バスケットボール
	シンガポール	バドミントン	サッカー	水泳	卓球	陸上競技	体操	バスケットボール	バレーボール
	タイ	バレーボール	ボクシング	バドミントン	陸上競技	重量挙げ	バスケットボール	体操	水泳
	トルコ	バレーボール	サッカー	バスケットボール	陸上競技	水泳	アーチェリー	体操	自転車
	フィリピン	バスケットボール	バレーボール	ボクシング	体操	バドミントン	重量挙げ	水泳	陸上競技
	中国	卓球	水泳	バスケットボール	バドミントン	サッカー	陸上競技	体操	バレーボール
	韓国	アーチェリー	サッカー	バドミントン	陸上競技	卓球	水泳	柔道	体操
	日本	陸上競技	水泳	バレーボール	体操	柔道	卓球	バスケットボール	サッカー
オセアニア	オーストラリア	水泳	陸上競技	体操	サッカー	バスケットボール	テニス	自転車	ボクシング
	ニュージーランド	陸上競技	体操	ラグビー	水泳	ボート競技	自転車	サッカー	重量挙げ

(出所) IPSOS「国際的スポーツイベントに対する意識」(2024年7月)

関心の高いオリンピック競技(日本と世界)

Q. 次のオリンピックイベントのリストのうち、最も関心があるものを3つ選択してください



(出所) 同左



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① 半導体戦争 (クリス・ミラー 著 ダイアモンド社)

図書館で本を借りる手続きをしている際にふと眺める他人の予約取り置き棚。たまに興味深い本を発見したりする。『半導体戦争』もそんな1冊。半導体知らない方にもわかりやすく約70年の歴史とその重要性を浮き彫りにしている。現在は半導体に対する米中の対立がもっとも注目されているが、その半導体の製造を支配しているのは実はごく少数の企業であり、そのひとつが日本にも工場進出している台湾のTSMCである。世界情勢を正確に知るには半導体のパワーバランスを知ることが不可欠で、非常に参考になった。

② 絹の襷 (稲葉 なおと 著 慶応義塾大学出版社)

恥ずかしながらまだ一度も訪問したことのない富岡製糸場。長年にわたって製糸場を所有・稼働させていた片倉工業。1987年に操業を停止した工場を2005年までそのまま温存した片倉工業。稼働しなくなった施設を18年間守り続けた。片倉工業に保存を決断させたのは何だったのか。一企業にそこまでさせる富岡製糸場とは何だったのか。その一方で、世界産業遺産に登録されるまでの関係者の尽力が伝わってくる。渋沢栄一との縁が深い尾高惇忠の富岡製糸場への貢献度も感じながら、この富岡製糸場を訪れたいくなった。

③ 都市に侵入する獣たち (ピーター・アラゴナ 著 築地書館)

最近街中にクマが出没したというニュースをよく耳にする。クマも人間の食べ物に味をしめていることもあるが、そもそもクマの生息地を脅かしているのが問題であろう。『都市に侵入する獣たち』で著者は問う。「私たちは都市の生態系とそれを共有する生物に、私たちが実際に何を求めているのかを問うことから始めなければならない。この問いに答えることによってのみ、私たちは都市の野生動物の歴史において、偶発的なものからより意図的な時代へと移行することができる」。野生動物との共生を考えさせられる一冊だ。



私のインフラ巡礼



「旧下野煉瓦製造会社煉瓦窯 (通称 野木町煉瓦窯)」 (栃木県野木町)



宇都宮線古河駅から3キロほど北にある野木町煉瓦窯は、1890年に築営されたホフマン式輪窯(※)で、現存するものの中で唯一完全な形を保っているものです。約80年間煉瓦製造が行われ、操業停止後1979年に国指定重要文化財、2007年に近代化産業遺産に指定され、現在は日本の近代産業を支えた遺構として一般公開されています。ここで作られた煉瓦は鉄道の橋脚やトンネルにも使用されたとされ、鉄道の発展を支えた貴重な施設です。美しい十六角形の窯や煙突は一見の価値ありです。

※窯を環状(円形、楕円形等)に配置して、連続して煉瓦を製造できるようにしたもの (JR東日本 若村 耕平さん)

編集後記

連日パリオリンピックの熱戦が伝えられる中、8月8日に南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が発表されました。「巨大地震はいつ起きてもおかしくない」と頭では分かっているけど、日々忙しくしていると、普段から万全の備えをしておくのは難しいですね… この機会に、備蓄品や連絡ツールなどをあらためて見直したいと思います。(Y.K)